

学校家庭地域が一体となった学校づくりへの参画

門池の森維持管理活動を通して

静岡県沼津市立門池中学校

一 はじめに

本PTAは、学校・家庭の協力によって門池中教育の充実振興に寄与し、生徒の健全な成長を図ることを目的に組織されている。平成一一年四月に門池連合自治会が発足したが、その準備期には校区を母体にした健全育成の活動を積み重ね、本PTAもその活動の一翼を担ってきた。折しも、平成一〇年度・一一年度にわたって門池中は「地域に学び地域に返す心豊かな生徒の育成」をテーマにして新しい学校づくりに取り組み始めた。この新しい学校づくりの趣旨と方向性を理解し、その取り組みを支え、学校の教育環境をより豊かなものにしようとして、また学校、家庭、地域の融和と連携の象徴として、門池の森づくりが始まったのであった。

二 主な活動内容

(一)門池の森造成活動

ア、門池の森の概要

校地内約三千㎡の斜面地を切り拓いて、江原素六先生顕彰会の木を中心に門池連合自治会の木、各自治会の木、PTAの木、学年・学級の木、職員の木等花木約百本を植栽。春はしだれ桜、しだれ梅、夏はサルスベリ、秋には紅葉や楓、冬にはサザンカや椿など四季折々の花木が花開いている。路地には紫陽花、向日葵、パンジー等の園芸植物の他に、地域住民の知恵で石路、水仙を雑草止めに植え込んで、森に四季折々の彩りを添えている。

森の散歩道には木製ベンチが置かれ、生徒はもちろん地域住民の目を楽しませ、憩いの場になっている。

イ、門池の森造成の経緯

平成一〇年一〇月PTA会長を企画委員長としてPTA本部会



を母体にした門池の森構想委員会を立ち上げ、造成の企画・推進を行った。これに翌年の門池連合自治会の母体となる二つの連合自治会や青少年を健やかに育てる会等、校区内各種団体の理解と協力が加わって門池の森を造る会を発足。平成一年四月、これが門池の森造成実行委員会に発展し、事業の主体を担った。平成一年五月の雑木林だった予定地の整備作業を実施。地域の各種団体やボランティア、PTA、教職員や生徒たちが参加して整地作業を実施した。以降PTA本部を中心に資材の集積や提供される花木の収集などに活動の中心を移した。

【PTSサミット】

事業立ち上げまでにPの代表、Tの代表、生徒の代表からなるPTSサミットを二回にわたって開催し、構想化の段階で生徒の意向を反映しようと努めた。造成場所、名称、規模、具体像等について話し合いをもち、この中で「門池の森」と命名することに決まっていた。これからの校区の展望についても議題にした。

【門池の森造成のために】

門池の森造成の資金は地元の教育後援会である金岡奨学会からの資金を原資にPTA主催のバザーやアルミ缶回収、地元の祭りへの模擬店などの出店などにより調達。門池の森造成を軸にPTA各部の活動が活性化され、広がっていった。

(二)門池の森維持管理作業

PTA役員を中心とした年三回の維持管理作業の他に日常活動にPTA有志が参加。毎週土日にはPTAや地域の誰かが維持管理作業に取り組んでいる。これに「水やり隊」「なんでもし隊」などの生徒のボランティア隊が参加。さらに夏休みなどは部活動前後に自主的な生徒の維持管理作業が加わっている。

(三)広報活動

PTA主催のパソコン講座を開催。門池中のホームページ内にPTAホームページを起ちあげてこれを紹介している。

伝統的なPTA広報誌「溪流」にも、門池の森に係る様々な活動を紹介してきた。



造成の企画・推進

四 実践の効果

(一)「学校を支える力」として位置づく

門池中は「地域に学び地域に返す心豊かな生徒の育成」をテーマに県教委の企画推進事業であるスクールボランティアに平成一〇年度から参加。これは、地域と一体となった総合的な学習「門池学習」を核とした新しい学校づくりで、地域を学習材にして生徒の自主性・自立性（「自ら」）を育もうという取り組みであった。門池の森造成事業の当初は、これとは別のものであったが、やがて生徒の自主活動の受け皿としての色彩を強め、新しい学校づくりにおける「学校を支える力」の象徴として位置付けていった。

(二)生徒の自主的活動に波及

門池中が取り組んだ「自ら」を育む活動、校内ボランティア活動に花植え隊、水やり隊、落ち葉掃き隊などがあつた。それらの活動と門池の森の維持管理作業がリンクし、生徒の自主活動の受け皿として機能するようになった。生徒は夏の部活動帰りに水を撒いたり、草むしりをしたり、あるいは森脇の「あいさつ通り」と命名された生徒の通路にPTA学年部と一緒に花を植えたり、自主的な落ち葉掃きが展開したりして、生徒の自主的な活動に広がりを見せることになった。

(三)学校・家庭・地域とのジョイント役に

地域との密接な協力関係が生まれ、生活指導面での協力関係のみならず門池学習における門池講座（地域人材を講師にした講座）や進路学習（地域人材を招いての職業講座）における協力的体制等、「学び」を通じた地域との連携にも発展し、地域で生徒を育てる体制が整っていくことになった。

門池の森造成から維持管理に至る活動は結果的にPTA活動が地域と家庭、学校（生徒）を結ぶジョイント役を担ったのである。

(四)PTA活動の主題として

門池の森づくりが、PTA活動の主題ともなつて諸活動に軸を通すことになった。現在は、この門池の森の維持管理がテーマになつて新たな組織「親父の会」の発足に向けて準備を始めたところである。

